教科		学科	科目	エンジン系応用構造					専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
教件	自動車工学		11 D	(学科)			对参加	科3年	開講期	<u>前期</u>	
教科担当	別表参	別表参照									
実務経験教員授業		非該当	総時限	21時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		取組加減
- 1 11 - 1									-		

〔授業概要•目的〕

ガソリンエンジンの構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン自動車整備士国家試験(登録試験)の

エンジン及び電装部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。

[授業の到達目標]

STEP1:二級ガソリン自動車教科書のエンジン及び電装領域を中心に、各章のエンジン及び電装の構造、機能、整備の知識を習得する。

STEP2:二級ガソリン自動車教科書のエンジン及び電装領域を中心に、登録試験部門別過去問題を活用し各章の理解度向上を図る。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

[使用教科書・教材等]

二級ガソリン自動車エンジン及び電装編、登録試験部門別過去問題、復習プリント

		授 業 計 画 表	No. 1								
STEP	標準時限	授業内容(項目)									
1	1	ガソリンエンジンの総論(性能、燃焼)									
	3	エンジン本体の構造・機能									
	1	滑装置、冷却装置、燃料装置の構造・機能									
	1	吸排気装置装置と燃料及び潤滑剤の構造・機能									
	3	電気装置 始動装置、充電装置、点火装置の点検方法									
	1	電子制御装置の構造・機能									
	1	単元学科確認									
2	7	ガソリンエンジン登録試験部門過去問題									
	1	ガソリン総合復習問題									
	2	電子制御装置の各種補正									

教科		学科	科目	シャシ系応用構造			対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
43/行	自動車整備		11 D	ノヤノボル用併坦			八多州	科3年	開講期	前期
教科担当	別表参照									
実務経験教員授業 非該当		総時限	21時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		

〔授業概要・目的〕

シャシ系の構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験(登録試験)のシャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。

〔授業の到達目標〕

シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、

ABS, TCS等の機能構造作動等について理解習得する

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 6 各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	'
		第2章 動力伝達装置	
1	1	マニュアルの伝達効率、機能、構造を学ぶ	
	1	トルクコンバータについて学ぶ	
	1	ATに関する各部センサーの目的、役割と安全装置について学ぶ	
	1	旋回性能、油圧式パワーステアリングの種類、構造、機能を学ぶ。	
	2	キャンバー、キャスター、キングピン傾角について役割を学ぶ	
	1	バッテリの機能、整備知識を学ぶ	
	1	計器(メータ、インジケータ)、警報装置の回路構造機能を学ぶ	
	1	外部診断機、CAN通信の機能を学ぶ	
	1	SRSエアバッグ、シートベルトの機能構造を学ぶ	
	1	単元確認	
2	1	制動倍力装置一体型、分離型の構成部品、構造、作動を学ぶ	
	1	乗用車、トラックの種類とボデー安全構造の特徴を学ぶ。	
	1	ボデーの振動、揺動、サスペンションの特性を学ぶ。	
	1	旋回性能を学ぶ。アンダー、オーバー、ニュトラルステア	
	2	ABS、TCSの油圧制御サイクルを学ぶ	
	2	第1章から第7章までの学科総合復習の実施	
	1	エアコンの分類、機能構造を学ぶ・オートエアコンの風量制御、温度制御を学ぶ	
	1	EPSの種類、構造機能を学ぶ・EPSの整備法を学ぶ	

教科		学科	科目	ジーゼル自動車				対象級	専門課程 自動車整備留学生 科3年	作成月日	25/04/01
40年	自重	加車工学	17 0	(学科)			对象拟	開講期		後期	
教科担当	別紙参	別紙参照									
実務経験教	員授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		
「授業概要	• 目的ì	•			•				•		

ジーゼルエンジンの構造、機能、整備について学習することで、二級ジーゼル自動車整備士国家試験(登録試験)の

エンジン部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。

〔授業の到達目標〕

STEP1: 二級ジーゼル自動車エンジン編教科書を中心に、各章のエンジン構造、機能、整備の知識を習得する

STEP2:二級ジーゼル自動車エンジン編教科書及び、登録試験部門別過去問題を活用し各章の理解度向上を図る

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

二級ジーゼル自動車エンジン編、登録試験部門別過去問題、復習プリント

		授 業 計 画 表	No. 1							
STEP	標準時限	授業内容(項目)								
1	1	ジーゼルエンジンの総論(性能、燃焼)								
	1	エンジン本体の構造・機能								
	1	潤滑装置と冷却装置の構造・機能								
	2	燃料装置の構造・機能								
	1	排気装置と電気装置の構造・機能								
	1	燃料の性質、潤滑剤(エンジンオイルの添加剤)								
	1	ジーゼル総合復習								
	1	単元学科確認								
2	5	ジーゼルエンジン登録試験部門過去問題								
	1	ジーゼルエンジン総合復習								

教科		学科	科目	 総合自動車工学				対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
教件	自動車工学		17 D	心口口划牛工于				外多加	科3年	開講期	<u>後期</u>
教科担当	教科担当 別紙参照										
実務経験教員	授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験		
[授業概要•目的]											

- ・国家2級ジーゼル・ガソリン資格の学力を習得する。
- ・総合自動車工学の基礎的な学力習得する。
- ・ホンダ4輪SE3級レベルの知識を習得する。

[授業の到達目標]

|STEP1・2:エンジン・電装・シャシ・検査の各領域に関連のある工学の知識を習得する

登録試験過去問題を活用し工学部門の理解度向上を図る

ホンダ4輪SE3級テキストを活用し理解度向上を図る

実施要領

- ・各単元で公論社問題集(ジーゼル)の担当分野を振り分け、解答解説を行い学力向上を図る。
- ・ホンダ4輪SE3級対策プリントを作成、クラス別に実施し、解答解説を行う。
- ・JAMCA統一問題に向け、前年度の登録試験、検定試験問題を練習問題として、実施。解答解説を行う。
- ・ジーゼルのストレート問題を実施し、実力と弱点の確認を行う。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

[使用教科書・教材等]

二級自動車ガソリン、二級自動車シャシ、計算のノウハウ、SE三級ソフト、ハード編

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	8	公論社2級ジーゼル練習問題集を各単元に振り分け実施と解説	
	2	実力確認	
	2	JAMCA統一模擬問題実施	
	4	ホンダ4輪SE3級練習問題実施	

教科		学科	科目	自動車総論				対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
1 22/17	自動車工学		11 11	口沙子心叫			<i>∧</i> 1 <i>₃</i> √// <i></i> //	科3年	開講期	<u>前期</u>	
教科担当	別表	別表参照									
実務経験教員授業		非該当	総時限	15時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 期末試験		

〔授業概要・目的〕

- ・2級整備士国家試験に結びつく自動車工学の基礎知識の習得。
- ・自動車の工学部門の基礎的な計算力を習得。
- ・自動車の工学部門の文書解説の基礎事項を理解する。

[実施要領]

- ・ST1にて4単元で単元の関係の強い項目を3時限or4時限を受け持って展開をする。
- ·ST2で、総合復習問題と解答解説の実施。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

[使用教科書・教材等]

二級自動車ガソリン、二級自動車シャシ、計算のノウハウ

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	3	エンジン系総論・性能 ・燃焼 ・エンジン系総論問題 ・燃料、材料	
	3	電装系計算問題全般	
	2	シャシ系総論・性能 ・走行性能曲線・ 車に働く抵抗 ・ギヤ計算	
	2	シャシ系工学計算・トルク、軸重計算・圧力計算	
2	1	シャシ系工学計算	
	1	エンジン系工学計算	
	1	総合練習問題	
	2	シャシ系工学計算	

				授業	計画	(シ ラ	バ ス)			
教科		学科 力車整備	科目	故	(障原因探	求	対象級	専門課程 自動車整備留学生 科3年	作成月日 開講期	25/04/01 後期
 教科担当	別紙多	 ò昭						作3年	州神朔	1久为1
実務経験教員		非該当	総時限	15時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		取組加減
	目的〕							L		
 機械系の故	障診り		診断方法	と対応手法	よを理解習	———— 得する。 -	一級資格は	こつながる電子制御	系統の診断	折手法
の基本を理	解習得	よする。整備	備に関する	制度など	の基本的な	よ事項を理	異解する。			
〔授業の到達	達目標)								
1)自動車の)故障	と探求教和	斗書を中心	に、各章の	の電気装置	量、電子制	御装置の	故障探求についての	知識を習	得する。
2)低圧電気	え取り打	及い特別教	枚育テキス	トを中心に	L、HV車の	構造、機	能、整備、	電気安全知識につい	ハて習得す	⁻ る。
〔学習評価の	の基準)								
各試験点	数の評	価は 5:	90~100	点 4:75	~89点 3	:60~74	点			
		6	0点未満の)場合は再	試験を行	5。尚、再	試験後の	評価は試験規程によ	る。	
〔使用教科	書∙教ホ	才等〕								
自動車の故	障と探	求、低圧管	電気取り扱	シンテキスト	、2級シャ	シ、2級ガ	ソリン、ホン	ノダSE3級テキスト(ノ	ハード偏) 🤄	
				授	業計画	表				No. 1
STEP 標準時限					挖	受業内容()	項目)			

低圧電気取り扱い講習①

低圧電気取り扱い講習②

低圧電気取り扱い講習③

充電装置の故障探求

点火装置の故障探求

始動装置の故障探求

エアコンの故障探求

単元確認

総合復習

SRSエアバッグ

PGM-FIの故障探求①

PGM-FIの故障探求②

HDS 通信システム

エアコンデショナー

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

教科		学科	科目	総合自動車整備シャシ				対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
教科 自動車		車整備	11 11	心口口到平正佣ノベン			入了多人炒久	科3年	開講期	<u>後期</u>	
教科担当	別表	別表参照									
実務経験教員	授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		
ान्य भाग भाग सन	□ <i>LL</i> >								-		

〔授業概要・目的〕

シャシ系の構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験(登録試験)のシャシ部門及び、SE3級において合格できるレベルの知識習得を目的とする。

[授業の到達目標]

受付から故障探究、引き渡しめでを理解習得する。

マニュアル・トランスミッション、ステアリング、ブレーキ、オートマチック関連の故障探究について理解習得する。

CVT、DCT(トランスミッション)の動力伝達~全般を理解する。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

[使用教科書・教材等]

二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、点検の手引き、SE三級ハード編

		授 業 計 迪 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	1	受付から引き渡しまでの一連の流れを学ぶ	
	1	マニュアル・トランスミッションの故障探究	
	2	ステアリング装置の故障探究	
	1	制動倍力装置の故障探究	
	2	オートマチック・トランスミッションの故障探究	
	1	学科復習	
	1	単元確認	
2	2	電子制御5AT、CVT,DCTの構造、機能、作動を学ぶ。	
	1	油圧パワーステアリング、ABSの構造、機能、作動を学ぶ。	
	1	サスペンションの故障探究	
	2	シャシ学科復習	

教	:科	学科 自動車検査	科目	総合自	動車整備	検査	:	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
数彩	 ·担当	別紙参照							科3年	開講期	後期
	75 mm 経験教員	<u> </u>	当 総時限	15時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
			- ^{ルム・ハ・} 子制御サスペ	4124	12.12.12.1	-11			の理解度を深める。	. И. Тр∏щ	47/11/1/11/194
		エアーブレージ							可のタイヤ, ホイール	の理解。	
		補助ブレーキ							<u> </u>		
 〔授業	の到達										
大型	コンプロ	/ッサ・関連装	と置の復習。	大型車輌0)エア・スフ	プリング	,関	連装置を	理解する。大型ABS	Sの理解。	
乗用ュ	車電子	制御式サス〜	ペンションを理	!解する。フ	大型バス・ト	・ラックの	の電	主 子制御式	ニエアサスペンション	を理解する) ₀
大型	車輌の	ホイールの取	り扱い, JIS・I	SO方式の	理解。タイ	ヤの後	[習	0			
補助	ブレー	キ, ブレーキ・	バルブ,補助	カブレーキ	の理解。4	WD0	理角	解とホンダ	DPS・AWDの概要	・作動の理	解。
大型	車に特	化した道路運	運送車両法・伊	マ 基準を	理解する。)					
〔学習	評価の	7基準]									
各詞	、験点	数の評価は	5:90 ∼1005	≒ 4:75 ^	~ 89点 3	:60 ~	74	点			
60л	点未満	の場合は再記	式験を行う。 尚	5、再試験	後の評価に	は試験	規程	是による。			
〔使用	教科	፟事∙教材等〕	2級、3級	ンヤシ	占令教材	点検	の手	三引きが	トンダSE3級テキスト	,	
					VII 1						
				授 	業計画		→ /=	-= \ -= \			No. 1
STEP		電フ判例式	サフ ^ºン / ご / _ ^	ムエマル		受業内? 			生,尔宝山		
		電子制御式・大型コンプレ				/ (人至	(1)	/ 茂 □ □	旦*仅刮		
		エアブレーキ									
		補助ブレーキ									
						置•突フ	防	正装置•非		方反射器	———— 等
		単元確認		,,	7 17 4 321		-124		1 114		-
		, , , , , , =									
	2	4WD(AWD)·DPS 4W	/Dシステム		構造•衫	割	HONDA	のシステムの理解		
	1	タイヤ・ホイー	ールのまとめ(小型•大雪	型) 機能・	構造					
	1	後期まとめ	後期檢查単5	元での復習	引(学科·実	習とわ	ず)				
	1 1		N/91/N-1-7								
		検査まとめ		ての復習(プリント・	ベー	-ス)			
		検査まとめ		ての復習(プリント	ベー	-ス)			
		検査まとめ		ての復習(プリント・	ベー	-ス)			
		検査まとめ		ての復習(プリント・	~~-	-ス)			

				12 **				<i>/</i> · <i>/</i> · <i>/</i> · <i>/</i>			
教	私	学科	科目		自動車検査	<u> </u>		対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
	47	自動車検査	11 11		口到平假直	1. 		八	科3年	開講期	前期
教科	担当	別紙参照			,						
実務組	圣験教員	負授業 非該当	総時限	13時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 単元·期末試験		取組加減
〔授業	概要•	目的〕車両法を	を理解し、	車検証や、	、別表の内	容を	理解	するタイ	イヤ・ホイールに関す	る理解を消	そめる ニー
軸重語	計算を	理解する 自動	加車が及ぼ	す環境へ	の問題、こ	これカ	らの	自動車の野	環境への取組みにつ	いて理解	する
〔授業	の到記	達 目標〕									
			十算を理解								
		検査)の種類と記							の理解		
車検調	正と別	表の見方を理解	できる	記録簿の内	内容の理解	化記	人	大型エス	ア装置と圧縮空気の	流れを理解	解する
		機器の必要性及				を含	め理	解する			
		理解し、法令に									
		!ディファレンシャ						-			
		静荷重半径•発	熱•走行音	*•摩耗•扁	平比を理	解す	る	自動車の)環境,公害,リサイク	クル等の理	!解。
		の基準〕									
		数の評価は 5:									
		の場合は再試験									
[使用	教科	書・教材等〕	2級、3級:	ンヤシー治	去令教材	点机	険の目	手引き オ	「ンダSE3級テキスト	•	
				——————————————————————————————————————	₩ ३	F: ±	<u>.</u>				NT 1
CTED	Am Substitute Dist			1欠		町 表	t —— 内容(:	百日 /			No. 1
STEP 1		授業導入 単元	一の進み方	め設備の		又未1	71谷(-	·只口 <i>)</i> ————————————————————————————————————			
1		車両法 第1章				引手	: 占#	全 主 淮			
		タイヤ・ホイール				7774	· /////	大坐十			
		計算 圧力計算									
		単元確認	- 144								
2	1	法令・計算 過	去問題								
			務に必要と	となる検査	機器						
		環境とリサイクル				.組み	と国の	Dシステム			
			閏滑剤に使								
	1	差動制限型ディ	(ファレンシ	イヤル 機能	能•構造•徭	2割					
	1	前期まとめ 前期	期授業の総	念まとめ							

教科	学科 自動車整備に 関する法規	2 科目		自動車法規	₹		対象級	専門課程 自動車 科3年	望 整備留学生	作成月日開講期	25/04/01 前期
教科担当	別紙参照							<u> </u>			ļ.
実務経験教員	員授業 非該当	総時限	13時限	授業方法	講	義	評価方法	学科試	験 単元·期末試験		取組加減
〔授業概要•	目的〕										
車両法を保	安基準を単元	毎に振り分に	ナ、詳しく角	解説を行う	事で、	国家	2級試験に	こつなけ	゚゙る		
〔授業目標〕											
道路運送車	両法、道路運	送車両の保	安基準を	学ぶことを	通じて	<u>, </u>	級自動車	整備士と	しての知識	を習得し	
正しい法規	の運用能力、料	判断基準を身	アに付ける	1							
E系9時限、	C系3時限を打	担当し、法規	の理解度	を深める							
〔学習評価の	の基準〕										
各試験点	数の評価は 5	:90 ~100 A	₹ 4:75 ~	~ 89点 3	:60 ~	74	点				
60点未満	の場合は再試	験を行う。片	f、再試験 ²	後の評価に	は試験	規程	呈による。				
〔使用教科	小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小	法令教材	点検の	手引き							
	_		授	業計画	表						No. 1
STEP 標準時限					受業内	容(コ	頁目)				
	道路運送車両				車の変	登録:	等 道路道	基送車両	iの点検、整	:備	
	第6章 自動車			-							
	保安基準 原										
	保安基準 前	照灯、車幅	汀、番号灯	「、尾灯 後	後部反	射器	、方向指	示器 警	音器、速度	計、最大積	載量等
1	単元確認										

	教科		実習	科目	エン	ジン系応用	構造	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
	秋什	自動車	重整備作業	行口		(実習)		<i>刘 </i>	科3年	開講期	前期
	教科担当 別紙参照										
	実務経験教員授業		非該当	総時限	59時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
at a vivine and a							·				

〔授業概要•目的〕

ガソリンエンジンの分解・組立整備を通じて、構造・作動の理解と、各部の点検測定や調整が出来るようになること

整備現場で実践できる知識及び技術習得を目的とする。

〔授業の到達目標〕

STEP1:二級ガソリン自動車教科書のエンジン・電装領域をベースに、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。

STEP2:実車のエンジン整備やトレーニングボードを活用して、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。及び外部診断機

(HDS)の活用方法を習得

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

エンジン部品、エンジン単体、完成車

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	2	ENG実践整備 I (オイル交換)	
	2	過給機単体の構造・機能	
	4	S07A吸排気装置&ラッシュアジャスタの構造・機能	
	2	LPG燃料装置の構造・機能	
	2	ロータリ・エンジンの構造・機能	
	4	V型6気筒エンジンの分解・組み立て及び構造・機能	
	2	エンジン総合復習	
	2	始動装置の点検	
	4	充電装置の点検	
	2	点火装置の点検	
	2	オシロスコープの使用方法	
	2	HDS(I)の基本操作	
	4	実車 始動・充電装置の脱着	
	2	エンジン電装総合復習	
	1	単元実習確認	

2	4	ENG実践整備Ⅱ(バルブクリアランス調整)
	4	単体エンジンのメタル勘合
	6	VTECの構造・機能
	2	エンジン総合復習
	2	外部診断器の基本操作
	4	電子制御装置の構造・機能

数 彩。	教科 実習 自動車整備作業		科目	シャシ系応用構造			対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
秋什			11 11				入了多人从父	科3年	留学生 作成月日 25/04/01 開講期 <u>前期</u>	
教科担当	別表参									
実務経験教員授業 非該当 総		総時限	59時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減	

|〔授業概要・目的〕

シャシ系の構造、機能、整備について実習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験(登録試験)のシャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。

安全作業、測定器具の取り扱い、分解方法を習得する。

〔授業の到達目標〕

AT、MT、CVT、油圧PS、アライメント、ブレーキ、サスペンション、構造、脱着、分解、組付、測定を理解習得する。

12ヶ月点検項目に対し点検方法、良否判断手法を学ぶ。

各測定に対し、適正な器具選び及び測定箇所にて正確な読み取り方を学ぶ。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

[使用教科書·教材等]

二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、点検の手引き

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	·
1	4	実車を用いて測定部位に関して測定方法を学ぶ	
	4	CVTの動力伝達、構造、作動を学ぶ	
	4	ラックピニオン型のコントロールバルブの作動を学ぶ	
	2	MT実車を使用し取付部位および油圧伝達順を学ぶ	
	2	ターニングラジアスゲージを使用し測定方法を学ぶ	
	2	キャリパー、ドラム、マスターシリンダの分解、組付けを学ぶ	
	4	安全作業についてと12ヶ月点検作業内容を学ぶ	
	2	ブレーキパッド、シューブレーキ脱着を学ぶ	
	4	一軸ATの動力伝達(1速~4速、リバース)を学ぶ	
	2	比重測定、比重からの起電力計算と放電容量の関係を学ぶ	
	2	フューエルポンプの脱着をして、センダユニットの点検法を学ぶ	
	2	実車での脱着を行いSRSエアバッグの機能構造を学ぶ	
	2	灯火装置の回路と診断方法を学ぶ	
	1	実習確認	

2	2	ドラムインディスクブレーキ(単品)分解、組付け
	2	コイルスプリングの脱着 サイドスリップテスターを使用しタイロッドにて調整
	6	記録簿記載時の記入欄の説明各点検項目の点検方法、調整方法を学ぶ。
	2	トルクコンバーターの構成部品について学ぶ。
	2	AT油圧制御(1速~4速、リバース)の伝達について学ぶ。
	2	三軸AT油圧制御、構造作動を学ぶ。
	2	単元復習(ステップ2の見直し)
	2	冷媒確認用モデルを使用し冷媒サイクルを学ぶ
	2	単品のEPSを分解し、構造作動を学ぶ

教	科		実習	科目				対象級	専門課程 自動車整備留学	作成月日	25/04/01
	1 1	目動車	整備作業	Ī		(企業実習))	7.1 200/20	生科3年	開講期	<u>後期</u>
教科	担当	別紙参	照								
実務網	圣験教員	授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習·実技	評価方法		レポート評価	取組加減
・自動車	整備士	:して実務	終経験のある 教	対員が、整備現	見場で必要な何	作業方法・知識	について、実	務経験を活力	してより実践的内容を指	導し授業を行	j _o
〔授業	概要•	目的〕									
体験》	実習を	通じて	、お客様も	見点に立っ	た行動を	直接学ぶる	ことで、自会	分自身のえ	人社後のありたき姿	を考えイス	トージ
できる	ように	する。1	并せて内気	定先で働く	ことへの其	月待とモチ~	ベーション	の高揚を	図 る。		
〔授業	の到過	崖目標)								
•販売	店の1	日の流	れ、時間	意識を身に	こ付ける。	・お客様	(接客)を	実践的に依	体験する。		
•販売	店の多	を付かり	う出荷まて	での作業を	実施体験	する。・実	践に基づ	く点検整	備、一般整備を体	験する。	
〔学習	評価の)基準)								
挨拶・	身だし	なみ・	取り組み	姿勢•積極	性・お客様	兼意識・整体	備実践力7	など5段階	で評価		
毎日の	りレポ	ート提片	出による評	価							
〔使用	教科	書・教材	才等〕								
					授	業計画	表				No. 1
STEP	標準時限					授	受業内容()	項目)			
		企業な	らの派遣	講師及び	実務経験	のある教員	による指	導を中心に	こ各項目を実施す	る	
	12	エンシ	ジン整備・−	一般作業•	まごころ点	検					
	12	車検・	点検整備	•洗車(販	売店の受付	付から出荷	までを模	凝体験)			
学	4	片付に	ナ・清掃の	実施(お客	様意識の	向上)					
内宝											
実習											

				汉未	ᄞᆝᄪ		/ · //			
教	£1.	実習	科目	白番	車検査(乳	KK =	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
	17	自動車検査作業		日男	単仮重(タ	₹自/	刘参加	科3年	開講期	<u>前期</u>
教科	担当	別紙参照								
実務組	圣験教員	員授業 該当	総時限	32時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
・自動車	整備士。	として実務経験のある	教員が、整備5	見場で必要な	作業方法・知言	畿について、 須	実務経験を活 た	いしてより実践的内容を指導	し授業を行う。	
〔授業	概要•	目的〕 自動車	車の法令を	実車を使	用し理解で	ける				
また、	エンジ	シ・シャシ系の内	内容から始	動・ブレー	・キの点検	、測定、良	.否判定が	出来るようになること	を目的とす	る。
〔授業	の到過	達 目標〕								
実車を	使用	し、保安基準を理	理解する							
車検証	正を理	解し、整備士とし	て正しい	知識を身に	こつけ部品	の取り付け	ナ場所を理	世解する アイス・アイス アイス アイス・アイス アイス アイス・アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス		
始動物	支置、	ブレーキ部品の	分解組みる	立てや、測	定、良否料	判定ができ	るようにな	ること		
検査機	幾器の	使用方法と、保	安基準値の	の理解						
別表を	使用	した、点検整備を	をし、車検	証、別表を	正しく理解	解すると共	に、記入か	ドできること		
車載記	诊断機	が使用できる								
タイヤ	チェン	ジャーが安全に	使用でき	3						
〔学習	評価の	の基準〕								
各試験	点数の	の基準、レポート評	価及授業の	の取り組みを	を総合して、	\[5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \]	・1」の5段隊	皆で表わす。		
5:特	に成績	賃優秀なもの 4:成	対績良のもの) 3:成績	普通のもの	2:成績。	やや劣るもの	の 1:成績特に劣り、不	「合格のもの」)
各試勵	険点数の	⊅評価は 5:90 ~10	00点 4:75	~ 89点 3:6	60 ~ 74点 6	60点未満の場	場合は再試験	食を行う。尚、再試験後の	評価は試験対	見程による。
〔使用	教科	小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小	習車両	車検証	サーキッ	トテスタ	パーツリン	スト		
2刹	及、3級	シャシ 法令	教材 自	動車整備	工具·機器	点検の	手引き	自動車と環境問題		
		では、実習内容は	により2輪を	を使用)						
STEP						受業内容(項目)			
1		車検証 車検証			項証明書	の理解				
		点検①エンジン								
		点検②下回り()								
		保安基準 実車		た保安基準	きの確認					
		タイヤ タイヤ交								
		単品ブレーキ分		単品のド	ラムブレー	キの分解				
		単品授業の見画								
2	2	黒煙テスタ・オノ	ペシメータ	黒煙テス	タ及びオノ	ペシメータ	の測定方法	去•保安基準		
-		CO・HCテスタ			<u> </u>					
-		ヘッドライトテスタ			* ** -* *	. ,, ,				
		マルチテスター					験の方法を	と理解		
		12ヶ月点検(14								
	2	12ヵ月点検 点	検時に使	用する車	載診断機は	こよる診断				

2 e-ディーラー HONDAの販売店の仕組みを理解し、見積書を作成

数 利.	教科		彩. 日	ジー	ーゼル自動	車	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
4文/十	応	用技術	11 11		(実習)			科3年	開講期	<u>後期</u>
教科担当	別紙参	照								
実務経験教員	授業	非該当	総時限	28時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
- 1 - 111 - 1 - 1										

〔授業概要・目的〕

[授業の到達目標]

STEP1: 二級ジーゼル自動車エンジン編教科書をベースに、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。

STEP2:二級ジーゼル自動車エンジン編教科書をベースに、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

エンジン部品、エンジン単体、完成車

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	6	コモンレール式燃料噴射装置の構造・機能	
	2	予熱装置の構造・機能	
	8	ENG実践整備Ⅲ(補器ベルト交換作業)	
	2	冷却装置の構造・機能	
	2	単元総合復習	
2	4	ジーゼルエンジンの吸排気装置の構造・機能	
	4	可変シリンダ・システム(VCM)の構造・機能	

授 業 計 画(シラバス)

				汉未	प्राप्त		<i>/</i> · <i>/</i> /			
教科	実習		整盘 佐要 科目		原因探求(丰油)	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
教件	自動車整備作業			以悍	尔凶1木小(:	大日)		科3年 開講		後期
教科担当 _{別紙参照}										
実務経験教員	員授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
•自動車整備士	として実績	务経験 のある教	数員が、整備理	見場で必要な何	乍業方法·知識	哉について、実	務経験を活か	心てより実践的内容を指導	し授業を行う。	
[授業概要・目的]										
機械系の故	機械系の故障診断における診断手法と対応手法を理解習得実践する。									

電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。

〔授業の到達目標〕

- 1) HDSの基礎的な作業ができること。 テスターを使用して各電気装置の単品ボードで故障探求ができること。
- 2)HV車のHVシステム簡易点検が安全にできること。
- 3) 実車を使用して電子制御系やエアコンの故障診断ができること。

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

低圧電気取り扱いテキスト、ホンダSE3級ハード偏、デジタルテスター、HDS一式、オシロスコープ、絶縁工具等

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	2	低圧電気取り扱い講習 HV車①	
	2	低圧電気取り扱い講習 HV車②	
	2	始動装置の故障探求	
	2	エアコンの故障探求	
	4	点火装置の故障探求	
	4	充電装置の故障探求	
	4	PGM-FI	
	2	始動装置の故障探求	
	2	エアコンディショナ	
	4	HDS	

					授業	全計 画	可(シ ラ	バス)		
教	科		実習 「整備作業	科目	総合自	自動車整備	シャシ	対象級	専門課程 自動車整備留学生 科3年	作成月日 開講期	25/04/01 <u>後期</u>
教科	担当	別表参	:照								
実務組	圣験教員	授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減
・自動車	整備士	として実務	系経験のある教	数員が、整備理	見場で必要な	作業方法·知	識について、気	実務経験を活	かしてより実践的内容を指導	算し授業を行う。	
〔授業	概要•	目的〕									
シャシ系の構造、機能、整備について実習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験(登録試験)の											
シャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。											
安全作	乍業、	則定器	具の取り打	及い、油圧	測定、分	解方法を習	習得する。				
〔授業	の到達	達目標〕									
AT,	油圧P	S、アラ	イメント、	クラッチ、フ	ブレーキ、	サスペンシ	/ョン、の脱	着、分解	、測定を理解習得す	る	
12ケリ	月点検	、車検	項目に対	し良否判と	断および雪	を備が出来	そる様になる	3			
〔学習	評価の	り基準]									
各試験	険点数	の基準	【、レポー】	評価及授	業の取り	組みを総合	合して、「5	4.3.2.1	」の5段階で表わす。		
5:特	がに成績	責優秀	なもの 4:	成績良の	もの 3:5	 は績普通の	もの 2:	成績やや	劣るもの 1:成績特に	こ劣り、不合	ì格のもの
各討	験点	数の評値	価は 5:9	00~100点	₹ 4:75 ~	~89点 3	$:60 \sim 74$	点			
			6	0点未満₫	場合は再	試験を行	う。尚、再	試験後の	評価は試験規程によ	. 3 。	
〔使用	教科	書・教材	等〕								
二級目	自動車	シャシ、	、三級自動	助車シャシ	、点検の	手引き					
					授	業計	画 表				No. 1
STEP	標準時限						授業内容(項目)			
1	4	三軸ATの伝達効率、機能、構造から故障原因、対処法を学ぶ									

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	4	三軸ATの伝達効率、機能、構造から故障原因、対処法を学ぶ	
	4	パワーステアリング(実車)の脱着	
	2	HDSの取り扱い・カスタマイズ項目の確認、作動の確認	
	2	ホンダマルチマチックの分解、組付けを学ぶ	
	4	ダブルウィッシュボーンのスプリング交換要領を学ぶ。	
	4	MT不具合箇所の測定による良否判断、故障診断を学ぶ。	
2	4	車検整備受付から引き渡しまでの流れを学ぶ	
	4	車両へAT油圧ゲージを取付け測定方法を学ぶ	

教科担当 別議参照 接時限 28時限 投票力 株理力法 大型大学 大学		斗	実習 自動車検査作業	科目	総	合自動車整	 整備	対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01			
実務経験検技表 該当 総時限 28時限 接換方法 文明では 実施が表 実施を連続している。 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型大型 大型 大型			日期単快宜作業			検査 				開講期	後期			
自動車電信士として美能機のある教料が、整備を満する表が作業力法・知識について、実形機能を落かして助実教物内容を指導し数素を行う。 授業概要・目的	教科技	旦当	別紙参照						1					
投業機要・目的 日動車の法令を実車を使用し理解すると共に、シャシの内容から大型のエアー関係の装置を理解する また、HONDA SE3級の内容として保証制度、AWDについても理解する 表示を使用し、保安基準を理解する 単品部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 単品部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 構助プレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチラスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解	実務経	験教員	損授業 該当 ■	総時限	28時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験	レポート評価	取組加減			
自動車の法令を実車を使用し理解すると共に、シャシの内容から大型のエアー関係の装置を理解する また、HONDA SE3級の内容として保証制度、AWDについても理解する また、HONDA SE3級の内容として保証制度、AWDについても理解する 接定機能の関連目標) 実車を使用し、保安基準を理解する 単品部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 補助ガレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解 (学習評価の基準) 各議の数基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5 :特に成績優秀な島の 4 :成績長のもの 3:成績普通のもの 2 :成績やや劣るもの 1 :成績特に劣り、不合格のもの 各談験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点末満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価はお験規程による。 レポートの評価は 5 :非常に優れている 4:億れている 3:普 通 2:やや劣る 1:勿る(再提出の必要がある) 【使用教科書・教材等】 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 接 業 計 画 表 STEP (単準7年) 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 2 補助プレーキ 2 相助力(N) 4 大型コンプレッサ、プレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インダアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 ローディーラ 4 24ヶ月点検(単検) + 保証制度 2 DPS	•自動車整	整備士と	こして実務経験のある	教員が、整備 理	見場で必要な付	作業方法•知識	について、実	ミ務経験を活力	してより実践的内容を指導	し授業を行う。				
また、IIONDA SE3級の内容として保証制度、AWDについても理解する 接業の到達日標 実車を使用し、保安基準を理解する 単晶部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 楠助プレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのWラステムの理解 (学習評価の基準) 各試験点数の基準・レポード評価及接業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:禁に成結保秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90 ~ 100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣も「再提出の必要がある」 (使用教科書・教材等) 実習車両 車検証 サーキットテスタ バーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点核の手引き 自動車と環境問題 技業計画表 No. 1 接業計画表 No. 1 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 1 2 12カ月点検 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 12カ月点検 2カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 1 2カ月点検 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 1 2カ月点検 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 2カ月点検 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	〔授業権	既要•	目的〕											
接業の列達目標) 実車を使用し、保安基準を理解する 単品部品を使用し、大型エアープレーキ、エアーサスペンションを理解する 構助プレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良合判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解 (学習評価の基準) 各試験点数の基準」レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5良階で表わす。 5:特に成績像旁なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やで劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの を試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やで劣る 1:劣な「再提出の必要がある) (使用教科書・教材等〕 実習車両 車検証 サーキットデスタ バーツリスト 2級 3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 技業計画表 No. 1 STEP *** *** ** ** ** ** ** ** **	自動車	の法	令を実車を使用	し理解する	ると共に、	シャシの内	容から大	型のエアー	-関係の装置を理解	する				
集品部品を使用し、保安基準を理解する 単品部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメークテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解 [学習評価の基準] 各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5・特に成績優秀なもの 4・成績良のもの 3・成績普通のもの 2・成績やや劣るもの 1・成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5・90~100点 4・75~89点 3・60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5・非常に優れている 4・優れている 3・普 通 2・やや劣る 1・劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等] 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画表 No. 1 STEP ************************************	また、H	HON	DA SE3級のI	内容として	保証制度、	、AWDに	ついても理	理解する						
単品部品を使用し、大型エアーブレーキ、エアーサスペンションを理解する 権助プレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良合判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店ンステムの理解 「P智評価の基準」 を試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの を試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等] 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画 表 No. 1 STEP ********* 「投業内容(項目) 1 2 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る ・ 対象による・ 対象による・ 対象による・ 対象になる	〔授業の	の到達	崖 目標〕											
補助プレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 「学習評価の基準」 各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5・特に成績優秀なもの 4・成績良のもの 3・成績普通のもの 2・成績やや劣るもの 1・成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5・90~100点 4・75~89点 3・60~74点 60点末満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5・非常に優れている 4・優れている 3・普 通 2・やや劣る 1・劣る(再提出の必要がある) 【使用教科書・教材等】 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業 計画 表 No. 1 STEP ************************************	実車を	使用	し、保安基準を	理解する										
検査機器の使用方法と、保安基準値、良否判定の理解 マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解 [学習評価の基準] 各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5・特に成績優秀なもの 4・成績良のもの 3・成績普通のもの 2・成績やや劣るもの 1・成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5・90~100点 4・75~89点 3・60~74点 60点末満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5・非常に優れている 4・優れている 3・普 通 2・やや劣る 1・劣る(再提出の必要がある) 【使用教科書・教材等】 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画表 No. 1 STEP ************************************	単品部	品を	使用し、大型エ	アーブレー	・キ、エアー	ーサスペン	ションを理	解する						
マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解 [学習評価の基準] 各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等] 実習庫両 車検証 サーキットデスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画 表 No. 1 STEP [監神時] 授業内容(項目) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 補助プレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、プレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 ローディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS	補助ブ	#助ブレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する 												
HONDAの販売店システムの理解	検査機	· ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・												
子智評価の基準	マルチ	・ルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する												
各試験点数の基準、レボート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点	HONI	HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解												
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの名試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等] 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画表 No. 1 STEP (受理地院) 授業内容(項目) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 補助プレーキ														
各試験点数の評価は 5:90 ~ 100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等] 実習車両 車検証 サーキットテスタ バーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業計画表 No. 1 STEP (電事時限) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 元スタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る 2 補助プレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、プレーキ、サスペンション 2 大型プレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 ロディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS	各試験	点数の	D基準、レポート語	平価及授業の	の取り組み	を総合して、	5.4.3.	2・1」の5段	階で表わす。					
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レボートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) [使用教科書・教材等) 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業 計 画 表 No. 1 STEP (特殊時限) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 テスタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る 2 補助プレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、プレーキ、サスペンション 2 大型プレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 DPS	5:特局	こ成績	賃優秀なもの 4:F	成績良のもの	つ 3:成績	普通のもの	2:成績	やや劣るも	の 1:成績特に劣り、	不合格のも	の			
レボートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある) 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業 計 画 表 No. 1 STEP 標準時限 授業内容(項目) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 市場プレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 中部のプレーキの分解組付け 2 中部のプレーキの分解組付け 2 中部のプレーキの分解組付け 2 中部のプレーキの分解組付け 2 中部のプレーキの分解組付け 2 とディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 DPS	各試懸	 魚点数	の評価は 5:90	~100点 4	1:75 ∼ 89	点 3:60~	~ 74点							
(使用教科書・教材等) 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト 2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 STEP (野専時限) 投業内容(項目) 1 2 12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 テスタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る 2 補助プレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のプレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS			60,	点未満の場	合は再試験	乗を行う。 尚、	、再試験後	の評価は記	式験規程による。					
2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題 授業 計画 表 No. 1 No. 1	レポー	-トの言	平価は 5:非常に	優れている	4:優れて	ている 3:普	通 2:	やや劣る	1:劣る(再提出の必要	がある)				
授業計画表 No. 1 STEP	〔使用衤	教科書	≛・ 教材等〕	医習車両	車検証	サーキッ	トテスタ	パーツリ	スト					
授業内容(項目)	2級	:、3級	かシャシ 法令	教材 自動	動車整備	工具・機器	点検の	手引き	自動車と環境問題					
1 2 12ヵ月点検 12カ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る 2 テスタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る 2 補助ブレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS					授	業計画	表				No. 1			
2 テスタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る 2 補助ブレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS	STEP標	標準時限				擅	受業内容(項目)			<u>I</u>			
2 補助ブレーキ 2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS	1	2	12ヵ月点検 12	カ月点検7	が実施でき	き、記録簿の	の記入がは	出来る						
2 制動力(N) 4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS		2	テスタ総合 検	査機器が仮	 恵用でき、	基準値を基	基に良否判	削定が出来	:S					
4 大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション 2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS		2	補助ブレーキ											
2 大型ブレーキ 2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS		2	制動力(N)											
2 エアサス、インタアクスル 2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS		4	大型コンプレッ	サ、ブレー	キ、サスペ	ペンション								
2 単品のブレーキの分解組付け 2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS		2	大型ブレーキ											
2 eーディーラ 4 24ヶ月点検(車検)+ 保証制度 2 DPS		2	エアサス、インタ	タアクスル										
4 24ヶ月点検(車検) + 保証制度 2 DPS		2	単品のブレーキ	の分解組	 付け									
2 DPS		2	eーディーラ											
2 DPS		4		[検)+ 保	証制度									
				.,	·									

教和	斗	一般	科目	2	安全運転学	£		対象級	専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01
	<u> </u>	, * :	, ,						科3年	開講期	<u>前期</u>
教科技	13当	別表参照									
実務経	験教員	到授業 非該当	総時限	3時限	授業方法	講	義	評価方法			
〔授業権	既要•	目的〕									
·交通 ⁵	安全に	こ対する意識向	上と知識の	習得を行	い、事故違	建反作	井数を	が削減する	0		
〔授業の	の到達	崖 目標〕									
•運転	責任者	者の認識、マナ-	ーマインドと	-運転の危	応 険予測の	スキノ	レアッ	プを図る。			
・ホンタ	で学園	生として車業界	.に携わるも	っのとしての	の安全への	取り	組み	`			
事故	違反	に対する厳しさ	について理	1解する。							
長期退	車休前	方に行いさらなる	安全意識	の強化を図	図る。 						
〔学習詞	評価の)基準]									
•評価(ンなV`	1									
〔使用	教科書	ቔ∙教材等〕									
•安全ì	軍転り	2関する動画、	修備不良に	関する資	料						
				授	業計画	斯 表	<u> </u>				No. 1
STEP	票準時限					授業区	内容((項目)			
						<	前期	>			
1	1	新2年生としての	り安全意識	で向上を	·図る						
	1	GW連休前の安	全運転学	の実施							
	1	所轄警察署より	安全運転	に関する詞	構習(黒山 ^⅓	警察	署より))			
- 1											

教科			実習 軍整備作業	科目		特別講座		対象級	専門課程 自動車整備留学生		25/04/01
	_							<u> </u>	科3年	開講期	<u>後期</u>
教科担当		別紙参			Г	 -			T		
実務経験	教員	授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	実習・講義	評価方法			
〔授業概 ً	要•	目的〕									
就職先進	路:	グルー	-プに分か	れ、国家記	式験合格に	こ向けた最	終実力養	成と即戦プ	かとなりうる実践的スキ	キルの習得	} 、
向上を目	指[~実力	養成を図る	<u>る</u>							
〔授業の致	<u></u> 到達	聲目標.]								
1)公論社	しの	練習問	引題(2級オ	ブソリン、2糸	汲ディーセ	ジル)の理解	¥度の向上	- 0			
2)各進路	弘	コース	、による、即	J戦力となる	る知識と技	技術力を身 に	につける。				
〔学習評值	囲の)基準])								
評価しない	٧١										
〔使用教和	科書	事• 教杉	才等 〕								
2級ガソリ	ン、	2級シ	ヤシ、法令	3、基礎自	動車工学	、基礎自動	b 車整備、	材料、製図	図、計算のノウハウ、1	電卓	
					授	業計画	表				No. 1
STEP 標準時	寺限						受業内容()	項目)			
2 24	4	各単テ	亡(エンジ)		/ャシ・検査	奎) で、コー	·ス別にて紅	総復習実施	施		
	1										
	\dashv										
	-										
	\dashv										
	\dashv										

				12	未 미	国(~	/ / /			
松 和		学科	4) H	立亡+外	(+#、 \/h- + - / -	·++ 4E	社	専門課程	作成月日	25/04/01
教科		自動車工学	科目	新機	構•次世代	拉州	対象級	自動車整備留学生 科3年	開講期	<u>後期</u>
教科担当	i 另	川紙参照	•				•	•		
実務経験都	效員	受業 非該当	総時限	8時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験		取組加減
授業概要	Ę•	目的〕								
手来のモ	ビリ	ティー技術と社	会の変化に	こ対応する	る授業を提	供し、技	術者としての	の幅を広げさせる。		
ペーカーを	女と1	ての特色、魅	力を発揮し	、他校競	争力を強化	とする				
授業の郅	」達	目標〕								
)ホンダ	製品	の技術・知識を	習得させ	整備サー	ビス応用力	力(SE3級	:以上レベノ	レ)を身に付けさせる		
) 電気・#	訓御	・情報技術サポ	ポート等の打	支術を習行	导させ応用	整備サー	-ビス力を向	可上させる		
)社会の	変化	とで生じている	策々な技術	う等を学 に	ばせ、技術	者としての	(幅を広げる	させる		
学習評価	折 の	基準〕								
5試験点	数の)基準、レポート	評価及授	業の取り	組みを総合	さして、「5	•4•3•2•1	」の5段階で表わす。		
:特に成	績個	憂秀なもの 4:5	成績良のも	の 3:成	績普通の	もの 2	成績やや	劣るもの 1:成績特	に劣り、不合	格のもの
子試験点	数の)評価は 5:90	~100点	4:75 ~	89点 3:6	$60 \sim 74$	Ŕ			
0点未満	jのţ	場合は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は	試験規程	による。			
ノポートの)評(価は 5:非常に	優れてい	る 4:優ね	っている:	3:普 通	2:やや	劣る 1:劣る(再提出	の必要があ	っる)
使用教科	書	•教材等]								
SE3テ ^ュ	[ス]	、・サービス知識	ţテキスト・]	PPT資料						
				授	業計画	画 表				No. 1
TEP標準時	限					授業内	容(項目)		-	
2	2	エンジン単元】	VTEC/VT	ECターオ	5,					
	2	電装単元】AHA	A、音と振動	助						
	2	シャシ単元】DC	CT機構							
	2	検査単元】新法	 卡令、特定	整備						
	-									

数形	教科 実習		科目	杂松			専門課程 自動車整備留学生	作成月日	25/04/01	
教件	自動車	整備作業	117 []	利17交	件"沃區下	נוע גנו	对多加	科3年	開講期	<u>後期</u>
教科担当	別紙参	照								
実務経験教員	員授業	非該当	総時限	34時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 期末試験		
〔授業輝更.	日的						•	•		

〔授業概要・目的〕

将来のモビリティー技術と社会の変化に対応する授業を提供し、技術者としての幅を広げさせる。

メーカー校としての特色、魅力を発揮し、他校競争力を強化する

[授業の到達目標]

- 1) ホンダ製品の技術・知識を習得させ整備サービス応用力(SE3級以上レベル)を身に付けさせる
- 2) 電気・制御・情報技術サポート等の技術を習得させ応用整備サービス力を向上させる
- 3) 社会の変化で生じている様々な技術等を学ばせ、技術者としての幅を広げさせる

[学習評価の基準]

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

[使用教科書・教材等]

車両・単品教材・SE3テキスト・サービスマニュアル・外部診断機

		授 業 計 画 表	No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)	
1	8	【エンジン】	
		・ホンダセンシング ・i-HDS ・センサ類 ・VTCモータ	
	8	【電装】	
		・製品技術 ・ホンダコネクト ・電動サーボブレーキ ・スマートキー ・故障対応フィールドレポー	F
	8	【シャシ】	
		・DCT分解組み立て	
	8	【検査】	
		・アライメントテスター ・エーミング	
	2	実習確認	